別冊太陽

高畠華宵

絵本名画館

美少年・美少女幻影

特別付録

華宵新作美人画

高畠華宵

美少年

美少女幻影

別冊太陽
絵本名画館

華宵のスタイルブック

銀座の柳をそよがせた華麗なモガ・ファッションのすべて

六

巻頭エッセイ 四 艶麗な美人画―やなせたかし

高畠華宵 目次 美少年・美少女幻影

春

八 夢の花園

夏

二二 七夕の宵

秋

三四 ささやく月影

冬

四六 木枯しの街から

異国の香気漂う魅惑の舞姫の妖艶な肢体 三〇 エキゾチック・ファンタジー

乙女の宝物として一世を風靡した「抒情便箋」 四二 華宵便箋

美少年讃歌 六〇 凛々しく、清々しい少年たちが画面いっぱいに躍動する

華宵の子ども絵

華宵曼荼羅

懐かしの少年雑誌 七〇 「少年倶楽部」と「日本少年」の表紙絵

花爛漫華宵画帳 八〇 白皙の少年たちがくり広げるペン画の英雄譚

豊かな頬にうるんだ瞳、紅い唇——華宵好みの幼子たち 九四

華宵の「金の船」 一〇二 童話雑誌の表紙を飾った愛らしい子どもたち

一〇四 スケッチ、色紙、軸物。自画像から絶筆まで

五三 歴史風俗絵巻 緻密な考証による多彩な風俗絵図

華宵絵物語 八五 浅茅ヶ原物語 八六 新東京景物詩画集 八六 かぐや姫 九二

作品論 一二三 華宵の描いた女性像——女神の降臨——草森紳一

特別寄稿 一二八 泣き虫華宵——鹿野琢見

評伝 一三〇 高畠華宵の生涯——移り行く姿——尾崎秀樹

高畠華宵年譜 一三〇 高畠華宵著作目録抄 一三四

次号予告 奥付 一三六 特別付録——華宵新作美人画

カバー＝君知るや南の国 便箋原画
大扉＝「少女画報」（東京社）の表紙
アートディレクション＝佐藤浩
レイアウト＝佐藤浩・岩片一久
編集＝高橋洋二・久田肇・秋山礼子・岡みどり・小島貴子・澤田陽子・鈴木道子
校正＝大木かおる
写真＝本誌写真部

艶麗な美人画

やなせ たかし

小学生のころ、母親のとっていた婦人雑誌の口絵の中で初めて見た美少女の口絵は白日夢のように美しかった。ぼくはそんなに美しい女性を見たことがなかった。なんともいえない物悩ましい官能のうずきを、そのときぼくは知った。その艶麗な画家が高畠華宵だった。ひどく特徴のあるサインもすぐにおぼえた。

日本はまだ貧しく、貧富の格差は激しかった。少年たちはうす暗い裸電球の下で、ういういしい大正ロマンチシズムの残照にいろどられる昭和初期の欧化文明の真っただ中で、乾いた海綿のように眼に入るすべてを吸収していた。

そのころ、雑誌の挿絵はまだ明治の匂いの残る日本画風のものが大部分だったが、流れるようなペン画で鮮烈な印象を与える前人未踏の華宵美人を見たときのめくるめくようなショックを、その時代の少年たちは忘れることができない。

少年や少女はビタミンEの不足したひびわれた手で雑誌のページをめくり、華宵の描いたつぶらな眸(ひとみ)の美少女群に魂をうばわれた。

それは狂熱的な恋の感情に似ていた。夢二の絵が詩的情感の漂う、うなだれた美女であるとすれば、華宵の美女は豊麗な肉体をもつセクシュアルな美女であった。

日本にも外国にも美人画の伝統はある。しかし華宵の創造した華宵美人はそのどれにも似ていなかった。明らかに日本画風の伝統に従いながら、どこか西欧風であり、それなのに日本髪や和服がぴったりと似あっていた。眼もと涼しい美少年は紺がすりの筒袖に色白のしなやかな肉体を包んでいて、舞台の役者のようにあくまでも端正だった。新聞配達の少年までも、少しもやつれていなかった。

そして華宵の絵はその時代のアイドルとして時代そのものをリードしていく。これは驚嘆すべきことだと思う。

純粋画壇の巨匠も時代をリードすることはできない。まして年老いて人生の終りに近づいてもなお最初のその絵とのめぐり逢いが忘れられず、初恋の幻想のように胸ときめかして郷愁にひたることなど、どうしてできようか。

高畠華宵はまさにその希有な画人のひとりであり、熱狂的なファンは全国にあふれて人気の絶頂にまでのぼりつめる。

试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

やがて軍靴のひびきの中に華宵美人がかき消されると同時に画家の絵は急速に衰えて、再び過去の栄光の座にかえることはなかった。

過ぎ去った華宵熱、それは一場の夢だったかもしれないが、華宵の絵は残っている。

年を経ても、ふっくらとした豊頬で、つぶらな眸をうるませて艶然として微笑している。

しかしあの少年の日に魂をふるわせた、こらえきれないような魔力が夢のように消え去ってしまったのはなぜなんだろう。

人気挿絵画家として、あるいは抒情画家としてみれば、それは単に時代の霧のむこうに姿を消した一人の大衆画家にしかすぎない。

でも華宵は決してそれだけの画家ではなかった。彼は挿絵画家ではあったが、その絵の中には日本画の丸山派や四条派、また洋画の印象派の影響も色濃く残っている。自画像の油絵は一見して岸田劉生の画風に似ている。

また装飾的なアール・ヌーボー、ギリシャ美術の古典、あるいは世紀末の耽美派の画家ビアズリーの影響まで、相当貪欲に吸収してたえず勉強して自分の絵の中にとりいれている。

純粋画壇の画家たちが、かたくなに狭い世界に閉じこもろうとする姿勢とは全く逆だ。

大衆画家は大衆に迎合するのではなく、常に一歩前を進む必要がある。

華宵はエポックメーキングだったのだ。一人の天才は運命の糸にあやつられて日本の挿絵の黄金時代に信じられないような奇跡の画風を創作する。

現在の大衆画家の中で華宵ほどに情感と官能を刺激する画家が一人でもいるだろうか。

特筆したいのは彼のモノクロームのペン画で、それまで毛筆が主流であった挿絵の世界に、流れるようにやわらかい独特のペンタッチを導入した。そしてそのペン先から生まれた中性的な妖しさの漂う美少年、美少女は暗い時代の谷間に咲いた花のようにどんなにか心を酔わせたろう。

華宵はホモ・セクシュアルであったと伝えられ、一生独身で身辺にはいつも美少年を置いていたといわれている。

たしかに「馬賊の唄」の凜々しい美少年が日本刀を腰にぶちこんで白馬を愛撫している絵には宝塚の男役のような倒錯的な魅力がある。しかし決して病的ではない。

ぼくらはもう一度現代の眼で華宵の絵についてふりかえってみたい。それは郷愁をこめて回顧するのではなく、狂熱的な魔力の源泉は何であったかをたずねたいのだ。

華宵！そのペンネーム。花の宵に似た華麗な画風の画家は、今天国で天使の顔のスケッチをしているのだろうか。

（漫画家）

SUMMER

SPIRIT

「少女画報」（東京社　昭和二年四月号）の表紙

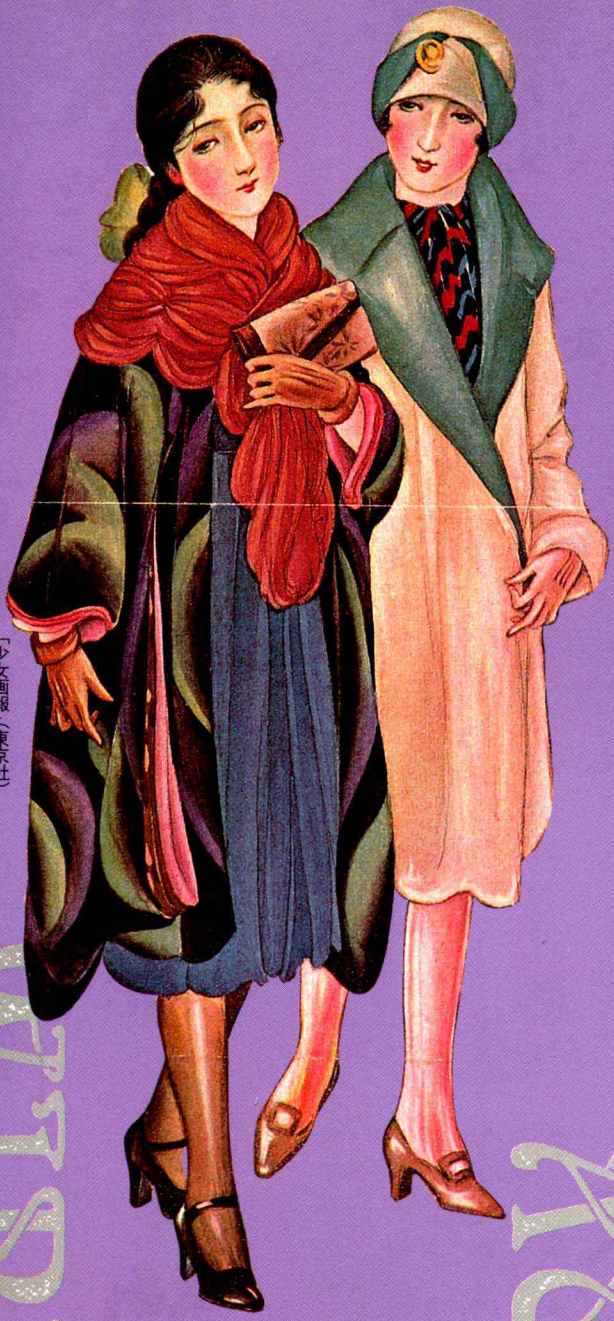
の華宵

お気に入りのクロシェを目深に
かぶり、ギャルソンヌ・ルックに
身を包んだ「華宵好みの君」が行く。
大正ロマンの風に乗って、懐かし
の銀座、憧れの麗人が、帰ってきた。

「少女画報」（東京社　昭和二年）

スタイルブック

STYLE BOOK



「少女画報」（東京社）

「少女画報」（東京社）

夢の花園

物憂げなまなざし、
透きとおるような頬、
優美な、白く細い指先。
誇らかに、あでやかに、
そしてほんの少し危うく、
美少女二人がたゆたう時。

「少女画報」(東京社)

SPIRITS

「少女画報」（東京社　昭和二年）の表紙

「少女画報」（東京社　昭和二年五月号）の表紙

「少女画報」（東京社）の表紙

「少女画報」（東京社）の表紙

试读结束：需

「少女画報」（東京社　大正一五年四月号）の表紙

春の海辺（「少女画報」東京社）

あさ緑はうれし　われは乙女（「婦人世界」実業之日本社　昭和二年三月号）

「少女の友」（実業之日本社）

「少女の国」（少女の国社）

春宵（「婦人世界」（実業之日本社）昭和三年四月号）

「少女画報」（東京社）

「少女画報」（東京社）の表紙

「少女画報」（東京社）の表紙

五月の庭　「少女画報」（東京社　昭和二年）

「少女画報」（東京社）の表紙

移り行く姿　6曲1双屏風　昭和10年

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com